

◆学部・学科紹介◆

地域のキーパーソンを育成

瀬戸内工業地域の産業界からの人材需要が高いのは、機械・電気・化学の3分野です。理科大の工学部では、「機械工学科」「電気工学科」「応用化学科」の3学科を設置しており、基礎学力と専門知識を習得し、自ら問題を発見し解決できる能力を備えた地域のキーパーソンを育成しています。

[工学部]

機械工学科

機械制御システムを開発する技術者を育てる

機械工学とは、自動車や航空機、ロボットやコンピュータなど、あらゆる工業製品や設備の開発・設計・製造について研究する学問です。



電気工学科

ハイテク産業を支える電気・電子・情報の技術者を育てる

電気工学とは、家電製品や電力発電、半導体やコンピュータなど電気や磁気現象を動力・熱・光などのエネルギー源として利用することを研究する学問です。



応用化学科

化学の力で人と地球に優しい物質を開発する

応用化学とは、原子や分子レベルで様々な現象を理解することから始まり、産業や私たちの生活に役立つ物質を研究・開発する学問です。



理科大の沿革

明治14年(1881年)

東京理科大学の前身となる東京物理学講習所を創立



東京理科大学とは姉妹校として連携関係にあり、特別編入制度や大学院への特別推薦入学制度があります。

昭和62年(1987年)

東京理科大学山口短期大学が開学

平成7年(1995年)

4年制大学へ改組転換し、山口東京理科大学が誕生

平成9年(1997年)

液晶研究所を設置



日本で唯一の液晶技術に特化した研究所です。

平成11年(1999年)

大学院基礎工学研究科修士課程を設置(2003年には博士後期課程を設置)

平成17年(2005年)

先進材料研究所を設置



ナノテク開発を行い、エネルギー、環境、医療などの分野で、先進材料を世界に発信しています。

平成21年(2009年)

工学部を設置
「機械工学科」「電気工学科」「応用化学科」の3学科体制

平成25年(2013年)

大学院工学研究科修士課程、博士後期課程を設置

平成28年(2016年)

公立大学法人 山陽小野田市立山口東京理科大学が誕生